

Luciano Pavarotti ルチアーノ・パヴァロッチィ

Luciano Pavarotti Oct 12,1935
 Time: 1:40AM Zone: 2:00 DST: 0
 Modena, Italy
 Longitude: 10E55 Latitude: 44N40 CurPer: Ra/Ve/Ve
 Lahiri Ayanamsa: 22:58 365.25 Day Year

As 18:11 Cn	Vimshottari Dashas
Su 24:45 Vi	Me Oct-12-1935
Mo 21:48 Pi	Ke Mar-27-1946
Ma 24:46 Sc	Ve Mar-26-1953
MeR 07:39 Li	Su Mar-26-1973
Ju 01:07 Sc	Mo Mar-27-1979
Ve 16:22 Le	Ma Mar-26-1989
SaR 11:10 Aq	Ra Mar-26-1996
Ra 24:25 Sg	Ju Mar-27-2014
Ke 24:25 Ge	Sa Mar-27-2030

Mo 21:48			Ke 24:25
SaR 11:10			As 18:11
			Ve 16:22
Ra 24:25	Ju 1:07 Ma 24:46	MeR 7:39	Su 24:45

		Ke	
Ma			Ju
Mo SaR			Su Ve
As MeR	Ra		

ルチアーノ・パヴァロッチィ (Luciano Pavarotti, 1935 年 10 月 12 日 - 2007 年 9 月 6 日) はイタリアのテノール歌手で、著名なオペラ歌手の 1 人。
 “キング・オブ・ハイ C (二点八の王者)”、“神に祝福された声”と評された豊麗な美声、申し分ない声量、明晰な発音、輝かしい高音が魅力の名テノールであった。20 世紀後半にクラシック音楽界が輩出したスーパースターの 1 人だった。
 (ウィキペディアより引用抜粋)

2 室は口やスピーチを表すため、2 室に金星が在住すれば芸術的なスピーチ、歌が上手い、声が美しい、また目、鼻、口などの顔を構成するものが美しいため、結果として顔も美しいという解釈である。また口から入るものも表すので美食家で、良いものを食べている。またお金に困らない、もともとお金をもって生まれてきている。両親が経済的に苦労しておらず恵まれている。などいろいろ考えられる。

ルチアーノ・パヴァロッチィとマリア・カラスという世界のトップレベルのオペラ歌手がふたりとも金星が 2 室に在住しているというのは、2 室金星という古典的な典型を表していると思われる。

金星は音楽の表示体であり、それが 2 室に在住して、スピーチに関わっているのである。彼らは舞台上に立って、歌うのだがそれはセリフであり歌詞でもあり、スピーチしたり歌ったりするのである。彼らは声が音楽なのであり、自分が持っている楽器(喉、声)の演奏家である。その楽器は非常に性能が良く、美しい音楽を奏でるのである。

パヴァロッチィは金星が 2 室でヴァルゴッタマであり、ラグナロードの月と 2 室支配の太陽が相互アスペクトしている。彼の場合、18 歳ぐらいからマハダチャー金星期が訪れており、その後の人生のキャリアにおいて、2 室在住の強い金星の影響下に入るのである。

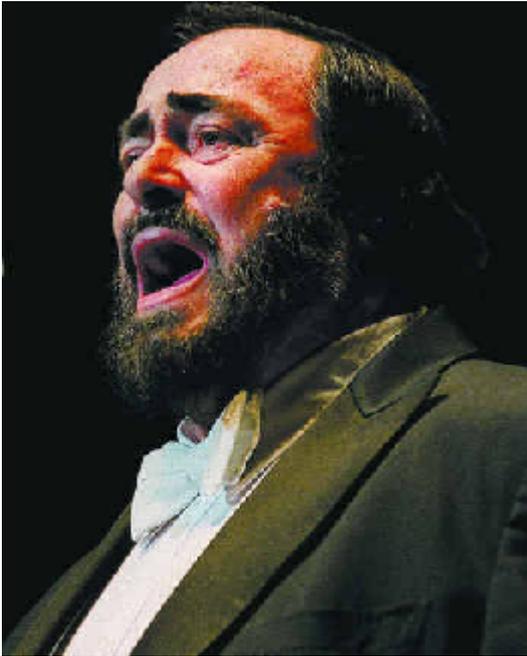
金星をラグナとすると、ラグナロードの太陽が 2 室に在住しており、ここでも 2 室への強い結びつきが

見られる。

次の38歳からのマハダシャー太陽期においても太陽は2室の支配星で、太陽をラグナとしても1、10室支配の水星が2室に在住している。そして次の44歳からのマハダシャー月期においても月は2室支配の太陽と相互アスペクトしており、月をラグナとすると、2室支配の火星と1室支配の木星が9室で接合し、ここでもラグナロードと2室の支配星の絡みが見られる。そして、ここでは火星と木星は9室と10室の支配星でもあるため、ダルマカルマラージャヨーガも形成している。そして、次の火星期においても火星をラグナとすると、ラグナロードの火星と2室支配の木星がラグナで接合している。

このように見てくると、パヴァロッティのチャートでは常にラグナロードと2室の支配星が絡んでおり、特に金星期、太陽期、月期は蟹座ラグナから見て、2室と密接に絡んでいる。

青年期から中年期までの人生のもっとも良い時期にマハダシャー金星期が訪れ、その後、マハダシャー太陽期、月期と経過することで円熟味を増していくのである。



Luciano Pavarotti ルチアーノ・パヴァロッティ

Maria Callas Dec 2, 1923
 Time: 7:07AM Zone: 5:00 DST: 0
 New York, NY
 Longitude: 74W00 Latitude: 40N43 CurPer: Me/Ra/Ra
 Lahiri Ayanamsa: 22:48 365.25 Day Year

As 16:42	Sc	Vimshottari Dashes
Su 16:30	Sc	Su Dec-02-1923
Mo 00:05	Vi	Mo May-19-1928
Ma 06:12	Li	Ma May-20-1938
Me 25:38	Sc	Ra May-20-1945
Ju 08:57	Sc	Ju May-20-1963
Ve 07:32	Sg	Sa May-20-1979
Sa 05:33	Li	Me May-20-1998
Ra 13:47	Le	Ke May-20-2015
Ke 13:47	Aq	Ve May-20-2022

Ke 13:47			
			Ra 13:47
Ve 7:32	Ju 8:57 Su 16:30 As 16:42 Me 25:38	Sa 5:33 Ma 6:12	Mo 0:05

			Ve
Me Ke			
Mo			Ra
As	Su Ma Sa		Ju

マリア・カラス (Maria Callas、1923 年 12 月 2 日 - 1977 年 9 月 16 日) は、ソプラノ歌手である。ニューヨークで生まれパリで没し、20 世紀最高のソプラノ歌手とまで言われた。
 特にルチア (ランメルモールのルチア)、ノルマ、ヴィオレッタ (椿姫)、トスカなどの歌唱は、技術もさることながら役の内面に深く踏み込んだ表現で極だっており、多くの聴衆を魅了するとともにその後の歌手にも強い影響を及ぼした。
 (ウィキペディアより引用抜粋、一部編集)

マリア・カラスのチャートでも 2 室に金星が在住しているが、パヴァロッティのようにラグナロードと 2 室の絡みというものはなく、2 室支配の木星が 1 室に在住することで、ラグナと 2 室の絡みは見られるが、パヴァロッティに比べて、1 室と 2 室の絡みは弱いようである。
 彼女の場合、金星は 7 室、1 2 室の支配星であり、金星の象意を損なっている。
 特に 7 室はカーマハウスで 1 2 室は性生活などを表しており、金星の象意は最大限に失われている。
 彼女は海運王オナシスとのスキャンダルなどで長期間のバカンス休暇を取ったり、歌への熱意が失せ、練習に熱が入らなくなり、才能を浪費して、37 歳ぐらいの早期に声が出なくなってしまったのはこうした配置によって示されていると考えることができる。

長期間の訓練に裏付けられていた**彼女の声は多忙やスキャンダルが積もり、歌への熱意や練習量が減るにつれて急速に失われた**。1960 年前後から高音が不安定になり楽譜通りに音域をカバーできない事態が増えていった。公演のキャンセルも相次ぎ、1965 年の『トスカ』の舞台を最後に事実上の引退状態になった。
 (ウィキペディアより引用抜粋)

また彼女はラグナロードの火星が 1 2 室に在住して、3 室支配の土星と接合して、アリシュタヨーガを形成している。彼女が薬物依存で晩年にはアパートに閉じこもりきりで、孤独な生涯を閉じたというのはこの配置によって示されている。才能に溢れ大舞台を経験しながらも、男性との情事に溺れてしばしば、舞台をキャンセルしたり、隠遁傾向があったのはこの配置から推測できる。

2 室とトリコーナとの絡みが少なく、またラグナに在住する 8、1 1 室支配の水星とも絡んでおり、誰

Luciano Pavarotti ルチアーノ・パヴァロッティ

が身近に狡猾な人物がいて振り回されたり、束縛され苦悩させられる配置でもある。この水星が2室支配の木星と絡んで2室の象意を傷つけている。

マリアカラスはオナシスと別れた後も、いつでも電話がかかってきてもいいように電話を手の届くところに置いておいたり、知性が正常な判断能力を失い、特異な行動に陥っていたのもこうしたことが原因かもしれない。8室はパートナーのお金であり、パートナーのお金と言えば、海運王オナシスのお金である。彼女は彼の豪華客船でバカンスをしたり、オナシスの富から最大限の恩恵を受けたが決して、幸福な関係ではなかった。その関係は束縛し、そしてその結果、彼女の才能は無駄に浪費されていったのである。オナシスは米国とのコネ作りのためにジャクリーンケネディ未亡人と再婚し、結局、損得の計算でマリアカラスとは結婚しなかった。そのような計算高い人物によって、マリアカラスは人生を翻弄されて束縛を受け、そしてそこから抜け出す判断能力もなく、ひたすらオナシスの電話を待つという識別力を欠いた不幸な生活を送るのである。

そして、4室の支配星が12室に在住し、ラグナロードも12室に在住して、敵対惑星同士で傷ついているが、4室は家であり、彼女は晩年アパートに閉じこもって隠遁生活を送ったというのはこの絡みが表している。そして薬物中毒や恋愛中毒は8室支配の水星であり、8室は不道德なもの、法則から外れたものを表すのである。水星は11室のトリシャダハウスも支配するため、水星は機能的に大凶星である。蠍座ラグナの人物にとって、水星は機能的に大凶星であり、その結果、生来的に識別力を欠いたり、狡猾な人物に苦悩させられたりする傾向があるのである。11室の支配星は同じ階級、クラスや同好会に属する人々や、そうした人々との社交生活を表し、10室支配の太陽とラグナで接合して、身近に社会的ステータスの高い人々や、地位ある人々が仕事からみで集まることを示しているが、その中にオナシスやその他の人々がいたと考えられる。

彼女が歌手として、デビューしたのは1938年頃であり、その頃はマハダシャー火星期である。

火星は12室に在住して土星と接合しており、ナヴァムシャでも同じ配置を繰り返している。

従って、彼女はデビューして時々大舞台に立って歌唱演技しても、スタジオでの録音などが多かったのではないかと思われる。

1947年にはヴェローナ音楽祭で『ラ・ジョコンダ』の主演を歌い、1950年にはミラノ・スカラ座に『アイダ』を、1956年にはニューヨークのメトロポリタン歌劇場に『ノルマ』を歌ってデビューし、それぞれセンセーショナルな成功を収めた。

デビュー当初はヴァーグナーも歌ったが（イタリア語でトリスタンとイゾルデのイゾルデ、同じくイタリア語でバルジファルのクンドリを歌った録音が残っている）、後にイタリア・オペラの広いレパートリーで歌うようになった。ロシーニ、ベッリーニ、ドニゼッティらのベルカントオペラから、ヴェルディ、プッチーニ、ピゼー（『カルメン』の主演）など、リリコ・スピントやドラマティコの声質むけの役柄でも並外れて優れた歌唱を行った。カラスの傑出した点は、ベルカントオペラに見られる様式的な登場人物に抜きん出た心理描写力と演技力で血肉を与え、作品の真価を多くの聴衆に知らしめたことにある。特に、『ランメルモールのルチア』『ノルマ』『メデア (Medea)』などは彼女によって本格的な復活上演が行われるようになったといっても良いくらいである。

（ウィキペディアより引用抜粋、一部編集）

1945年から事実上の引退となる1963年まではマハダシャーラーフ期であるがラーフはヴァルゴッタマで10室に在住しており、大舞台で活躍し有名になる時期である。

ナヴァムシャでもラーフは9室に在住し、10室の支配星からアスペクトを受けており、ラージャヨーガを形成している。昇進の時期であり、社会的な地位や名声が得られる時期である。

彼女の円熟期はこのラーフ期であるがラーフから見ると9、10、11室に惑星が在住せずに4室に惑

Luciano Pavarotti ルチアーノ・パヴァロッティ
星集中している。これは彼女がやはり内向的でプライベートを重視する傾向を表している。マハダシャー
ラーフ期の真っ最中で大きくは世間の注目を浴びて大舞台に立つ時期であっても、個々の局面におい
ては彼女はやはりプライベートや家庭生活などの内面生活を重視することが分かる。
そしてラーフはマハダシャーレベルでは2室の支配星に絡んでいないため、やはりここでもパヴァロッ
ティとは大きな違いが見られる。彼女は歌にそれほど情熱を感じることが出来ずに社交や遊びなど俗的
なことに熱中したのである。

